

平成25年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 [実践事例レポート]

- 1 報告地区 : 胆振地区
- 2 事例報告学校名 : 登別市立幌別小学校
- 3 報告者職・氏名 : 校長 寺田 悟
- 4 キーワード : 確かな学力を育てる授業の創造
～教師の授業力向上を目指して～

1 はじめに

「授業の中で子どもを育てる」これが幌別小学校の変わらぬ信条です。今年度も、「一時間一時間の授業を大切に」「45分の授業の中で確かな学力を育てる」そんな授業を目指し、日常の実践に取り組んでいます。昨年度から、道教委の「学校力向上に関する総合実践事業」の指定を受け、若手教師が増えたことで、授業づくりにかける熱意がさらに高まっています。

2 授業力を高める～学力を育てる授業づくり～

① 校内研修の充実

本校では、授業づくりの基礎・基本を学ぶのに適していることから、国語科“読むこと”を実践教科にしています。

主張のある授業づくり

単元を通して身に付けさせる指導内容を明らかにすることから授業づくりが始まります。

児童が意欲的に取り組む学習課題の設定、考えを促す発問や板書、考えを練り合い深める場面の設定など、ねらいを達成させるための手だてを明確にした“主張のある授業づくり”を大切にしています。授業についての検討も、この主張に視点を当てて行うことで、成果や課題を全体で共有しやすくなります。



積極的な授業公開



授業力を向上させるためには、いろいろな授業を見ること、またいろいろな先生に授業を見てもらうことが大切です。そこで、本校では各学級年間2回（全校研授業とチーム研授業）の研究授業を行うようにしています。

研究授業の指導案や板書計画は低・中・高の各チームで検討し、事後の協議は全体またはチームで行い、成果と課題を確かめます。

② 管理職による授業参観

日常の授業を大切にすることが授業力向上につながると考え、日常的に校長が授業を参観しています。2学期には全学級を対象に「校長先生参観授業」を行い、授業づくりの視点や指導技術の基本などについて、校長が授業者と話をします。

校長が日常的に授業を参観し、教師の授業力に応じて実践の評価や今後の課題を与えることで、教師の授業づくりへの意欲も高まっています。



3 教師力を磨く～授業力を支える人材育成～

「学校力向上に関する総合実践事業」における人材育成の観点から、校内研修以外にも、様々な研修の機会を設けています。

① ミニ研修講座



ミニ研修講座は、本校および近隣校の若手教師を対象に、学習指導や生徒指導など多様なテーマで、今年度は20回程度行う予定です。各分野で豊富な経験をもつ本校または近隣校の教師が講師を務め、講話や説明の他、模擬授業や演習、実践指導などテーマに合った方法で研修を進めるようにしています。

若手教師はもちろん、講師を務める教師にとっても、自己の実践について振り返る貴重な機会となっています。

② 初任者研修の自校実施



昨年度から、初任者研修が自校実施となりました。今年度は年間370時間の研修計画を立て、初任者指導教師が中心となって研修を進めています。

自校実施の研修では、日常的継続的に初任者の授業や学級経営を観察し、より実践的な指導をすることができます。実態に応じた研修課題を設定することで、初任者の資質向上につながる研修となっています。

4 おわりに

授業力向上に近道はありません。教師一人一人が日々の授業実践を通して、授業観や指導技術を地道に積み重ねていくしかないのです。そのたゆまぬ努力が、児童の確かな学力につながると信じて、私たちは今日も教室に向かいます。